

# インフォメーション・コーナー

令和6年9月20日からの北陸・東北地方を中心とした豪雨により、お亡くなりになられた方々へ謹んで哀悼の意を表しますとともに、家屋や農地などの被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を祈念しております。

## 会 告

|                                                                                 |    |
|---------------------------------------------------------------------------------|----|
| ○2025年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10月31日                                                  | 60 |
| ○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付                                                 | 61 |
| ○CPD 認定基準の一部改正(2024年度から)―「その他の自己学習(x)」の上限値等の見直し―                                | 61 |
| ○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載                                                       | 62 |
| ○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!                                                   | 62 |
| ○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!                                                 | 62 |
| ○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内                                       | 64 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと<br>2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局 | 64 |
| ○第75回関東支部大会講演会・地方講習会・情報交換会の開催(第2報) 講演申込締切 10月11日                                | 65 |
| ○第45回農村計画研究部会現地研修集会の開催(第2報) 参加申込締切 10月25日                                       | 66 |
| ○第34回農村道路研究部会研究集会の開催(第1報) 発表申込締切 10月29日                                         | 67 |
| ○令和6年度 ADCA セミナー「国際協力という選択」の開催 10月19日開催                                         | 67 |
| ○第33回微粒化シンポジウムの開催 12月17・18日開催                                                   | 68 |
| 農業農村工学会論文集 内容紹介                                                                 | 69 |
| 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌 最新号掲載論文紹介                                 | 70 |
| 農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧                                               | 72 |
| 学会記事                                                                            | 73 |

## 第92巻第11号予定

展望：野生鳥獣による農作物被害の状況と対策について：阿部尚人

小特集：農業農村における野生鳥獣害対策の最前線

報文：シカの持続的な被害対策とジビエ活用を可能にする捕獲方法：大北 亮ほか

報文：市町村による獣害施策の推進に関する事例的考察：九鬼康彰ほか

報文：遠隔監視カメラを用いたくくりわな巡回管理労力の軽減効果：藤井清佳ほか

報文：音を活用した追い払いによる獣害対策への試みと今後の課題：申 文浩ほか

## 技術リポート

北海道支部：管路更生工法の選定における留意点：鈴木俊弘ほか

東北支部：中山間地域における自走式草刈機を活用した省力化実証調査：山本貴則ほか

関東支部：中山間地域における圃場整備後の湧水対策：梶山直輝

京都支部：五條吉野地区の農道整備における雨水調整施設の設置：鳥居 寛ほか

中国四国支部：実証モデル圃場を活用した田んぼダムの推進：石田 敬

九州沖縄支部：伊唐大橋の機能診断・機能保全計画策定：隈元一也

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

| 開催日                       | 主催       | 行事名                                  | テーマ                           | 開催場所       | 掲載号         |
|---------------------------|----------|--------------------------------------|-------------------------------|------------|-------------|
| 2024年10月<br>16～17日        | 中国四国支部   | 第79回支部講演会<br>第48回地方講習会               | Ⓟ<br>—                        | 鳥取県        | 92巻6, 7, 8号 |
| 2024年10月<br>18日           | 土壌物理研究部会 | 第63回研究集会                             | 不均一性とスケールの問題を考える              | 川崎市        | 92巻9号       |
| 2024年10月<br>29日           | 北海道支部    | 第44回研修会                              | Ⓟ<br>みどりの食料システム戦略の実現に向けた取組（仮） | 札幌市・オンライン  | 92巻9号       |
| 2024年10月<br>30日           | 北海道支部    | 第73回研究発表会                            | Ⓟ<br>—                        | 札幌市・オンライン  | 92巻9号       |
| 2024年10月<br>31日～11月<br>1日 | 九州沖縄支部   | 令和6年度支部大会（第105回講演会・講習会・シンポジウム・現地見学会） | Ⓟ<br>—                        | 福岡市        | 92巻4, 8号    |
| 2024年11月<br>7～8日          | 農村計画研究部会 | 第45回現地研修集会                           | ルーラルイノベーション                   | 山形市・山形県朝日町 | 92巻9, 10号   |
| 2024年11月<br>18～19日        | 農村道路研究部会 | 第34回研究集会・現地研修会                       | Ⓟ<br>—                        | 盛岡市        | 92巻10号      |
| 2024年11月<br>19日           | 京都支部     | 第81回研究発表会                            | Ⓟ<br>—                        | 奈良市        | 92巻4, 6号    |
| 2024年12月<br>13日           | 関東支部     | 第75回支部大会講演会・地方講習会・情報交換会              | Ⓟ<br>—                        | さいたま市      | 92巻9, 10号   |

2025年度農業農村工学会賞候補の推薦

2025年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、締切は、2024年10月末日です。推薦書様式および授賞規程募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。は学会ホームページをご参照ください。

2025年度 農業農村工学会賞 募集要項

| 賞の種別   | 学術賞                                                                                        | 奨励賞                                                                                        |                                                                                            | 優秀賞                                                                                         |                                 |                                                    |                                 |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------|
|        |                                                                                            | 研究奨励賞                                                                                      | 技術奨励賞                                                                                      | 優秀論文賞                                                                                       | 優秀報文賞                           | 優秀技術賞                                              | 優秀技術リポート賞                       |
| 賞の趣旨   | 農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績                                                         | 農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績                                                       |                                                                                            | 農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績                                                                 |                                 |                                                    |                                 |
|        |                                                                                            | 農業農村工学に関する研究業績                                                                             | 農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績                                                                | 農業農村工学に関する単独の論文業績                                                                           | 農業農村工学に関する単独の報文業績               | 農業農村工学に関する単独の技術業績                                  | 農業農村工学に関する単独の技術リポート業績           |
| 賞の対象期間 | 2019年10月から2024年9月までに発表されたものとする。ただし、その5か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。 | 2021年10月から2024年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。 | 2021年10月から2024年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。 | 2023年10月から2024年9月までに発表されたものとする。                                                             | 2023年10月から2024年9月までに発表されたものとする。 | 2022年10月から2024年9月までに発表されたものとする。                    | 2019年10月から2024年9月までに発表されたものとする。 |
| 賞の対象業績 | 原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。                                                               |                                                                                            |                                                                                            | 原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。                                                                    | 原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。        | 原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。 | 原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。    |
| 受賞候補者  | 個人                                                                                         |                                                                                            |                                                                                            | 個人または組織、団体                                                                                  |                                 |                                                    |                                 |
| 推薦の方法  | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。                      |                                                                                            |                                                                                            | 正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。 |                                 |                                                    |                                 |

| 賞の種別   | 著作賞                                                                | 教育賞                                             | 環境賞                                                                     | 歴史・文化賞                                   | 地域貢献賞                          | 国際貢献賞                                   | メディア賞                              | 功労賞                                                                |
|--------|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 賞の趣旨   | 原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績 | 農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績 | 農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績 | 農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績 | 農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績           | 農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績 | 農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等 | 長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者 |
| 賞の対象期間 | 2014年10月から2024年9月までに発表されたものとする。                                    | 2019年10月から2024年9月までにを行った活動とする。                  | 2022年10月から2024年9月までにを行った活動とする。                                          | 2019年10月から2024年9月までにを行った活動とする。           | 2019年10月から2024年9月までにを行ったものとする。 | 2019年10月から2024年9月までにを行ったものとする。          | 2022年10月から2024年9月までに制作したものとする。     |                                                                    |

|         |                                                                       |                                                                                              |                                                                       |                                                                                  |                                                                       |                                        |                                        |
|---------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|
| 賞の対象業績  | ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。              |                                                                                              |                                                                       |                                                                                  |                                                                       |                                        | 2024年度末に65歳以上に達している者                   |
| 受賞候補者   | 著者                                                                    | 個人または組織・団体                                                                                   |                                                                       |                                                                                  | 個人                                                                    | 個人または組織・団体                             | 個人                                     |
| 推薦の方法   | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。 | 正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。 |
| 選考の方法   | 学会賞選考委員会において行う                                                        |                                                                                              |                                                                       |                                                                                  |                                                                       |                                        |                                        |
| 賞の決定    | 理事会において行う                                                             |                                                                                              |                                                                       |                                                                                  |                                                                       |                                        |                                        |
| 表彰      | 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する                                   |                                                                                              |                                                                       |                                                                                  |                                                                       |                                        |                                        |
| 推薦締切    | 2024年10月末日                                                            |                                                                                              |                                                                       |                                                                                  |                                                                       |                                        |                                        |
| 推薦書の提出先 | 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛                      |                                                                                              |                                                                       |                                                                                  |                                                                       |                                        |                                        |

## お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

ポストコロナの社会的状況を踏まえ学会では2024年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

この度、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充(⑦)を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- 学会の事業計画に沿った調査・研究(学会に一任)  
(※特に記載がなければ(1)として扱います。)

- 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
  - 気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
  - 頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ①, ②以外分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①, ②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

- 若手研究者の育成の推進

- 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理  
・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ([https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin\\_kifuno-onegai/](https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/))をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置(一般損金算入限度額+特別損金算入限度額)が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

## CPD 認定基準の一部改正(2024年度から) —「その他の自己学習(x)」の上限値等の見直し—

近年、品確法や建設業法の下でCPDが評価され、また日本技術士会では「技術士(CPD認定)」の運用が始まるなど、

CPDの活用が進んでいます。その一方で、コロナ禍の行動制限によって研修の形態が「集合対面型」より、インターネット

を介した「自己学習型」が増加し、参加証明が得難い研鑽機会も増大しています。

農業農村工学会技術者継続教育機構では、このような自己学習型の研修実績を正当に評価するため、2024年4月より、業務運営細則に定める「別表2 教育形態区分表」を一部改正し、

自己学習【x】の分類の記号を【x1】と【x2】に区分するとともに、年間上限値を他の主要なCPD運営体と同等の合計30cpd（現在は20cpd）となりました。

なお、自己学習型の記録申請には、これまでどおり証拠書類の提出は不要です。

【別表2】教育形態区分表の該当部分（下線部分を改正）

(改正後)

| 形態     | 分類Ⅰ           | 分類Ⅱ                                                         | 記号 | cpd単位 | 上限値 | 証拠提出 |
|--------|---------------|-------------------------------------------------------------|----|-------|-----|------|
| ⑤自己学習型 | 「水土の知」による自己学習 | 「水土の知」の購読                                                   | x1 | 0.5 H | 10  | －    |
|        | その他の自己学習      | 農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVDの視聴、e-learningの受講、語学習得、展示会での情報収集等 | x2 | 0.5 H | 20  | －    |

(改正前)

|        |               |                                                             |   |       |    |   |
|--------|---------------|-------------------------------------------------------------|---|-------|----|---|
| ⑤自己学習型 | 「水土の知」による自己学習 | 「水土の知」の購読                                                   | x | 0.5 H | 10 | － |
|        | その他の自己学習      | 農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVDの視聴、e-learningの受講、語学習得、展示会での情報収集等 |   | 0.5 H | 10 | － |

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもあるCPD個人登録者が在宅のままCPD単位が取得できることを目的に「CPD通信教育」を実施しています。

2021年9月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌10号掲載の問題は11月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予

告なく変更することがあります。

## 学会誌第 92 巻・第 93 巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ                           | 要 旨 締 切<br>(A4 判 1,500 字程度) |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| 第 92 巻第 11 号 農業農村における野生鳥獣害対策の最前線 (仮)  | 終了                          |
| 12 号 —                                | 公募なし                        |
| 第 93 巻第 1 号 農業農村工学分野における AI の活用 (仮)   | 終了                          |
| 2 号 —                                 | 公募なし                        |
| 3 号 —                                 | 公募なし                        |
| 4 号 農村を安全に支えるには (仮)                   | 10 月 10 日                   |
| 5 号 食料供給の安定化と環境保全に資する農業生産基盤の新たな展開 (仮) | 11 月 10 日                   |
| 6 号 これからのストックマネジメントのあり方 (仮)           | 12 月 10 日                   |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒 105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

## 学会誌第 93 巻第 4 号テーマ「農村を安全に支えるには」(仮)

農作業を行うため、また、農地や用排水路、ため池、農道などを支えるためには、人が現場に出ることが欠かせません。また、農村空間は、農業者だけではなく、地域住民など多くの人たちが利用する空間でもあります。しかし、残念なことに、農林水産省による「農業用排水路における安全管理の手引」をはじめさまざまな対策が講じられている中でも、農業用排水路やため池での水の事故、高所・法面での転落・転倒、車輛の転覆などによる死亡事故は後を絶ちません。また、豪雨時等に農地や農業用施設の見回りに出て亡くなる方も根絶できていないのが現状です。

このような事故の対策については、転落防止のための柵の整備、スマート農業やデジタルトランスフォーメーション推進のための作業の省力化・効率化や危険リスクの除去といったハー

ド整備が考えられています。それと同時に、危険に近づかない、安全確保を最優先するといった意識面での対応、危険回避に関する広報の充実など、ソフトな施策の推進も必要であると考えられます。このように、農村を支える活動の安全を確保しつつ、安全な農村空間を形成することは、農村の振興を図る上で、緊急かつ重要な課題の一つです。

そこで、本小特集では、農村の安全に関する課題の現状分析から、対応策の提案、農村の安全に貢献する新技術の紹介および課題、過去の対応策の評価まで、ハードな整備とソフトな施策の両面から、農村を安全に支えるために必要な技術・施策を、施工現場における知見なども含め産学官民で幅広く検討するための報文を募集いたします。

## 学会誌第 93 巻第 5 号テーマ「食料供給の安定化と環境保全に資する農業生産基盤の新たな展開」(仮)

わが国の農業は、食料供給の安定化や環境保全において重要な役割を果たしています。しかし、気候変動や世界人口の増加に伴う食料需給の不安定化により、輸入依存に対するリスクが高まっています。他方、国内では主食用米の需要の減少傾向が続いており、麦・大豆や野菜など需要のある作物への転換が求められています。こうした背景の中、「食料・農業・農村基本法」が改正され、気候変動などによる災害の防止や軽減を図ることによって生産への悪影響を抑えることや、環境との調和および先端的な技術を活用した生産方式との適合に配慮しつつ、農業生産基盤の整備や保全のための施策を講じることが新たに位置づけられました。さらに、水田整備では汎用化に加えて畑地化が明記されました。

農業従事者の減少が進む中で、食料生産を増やし、同時に環境保全を実現するためには、抜本的な技術革新とともに、新た

な時代に即した農業生産基盤のリデザインが必要です。水田の畑地化や、社会実装されている使用者の監視下(目視)で無人の自律走行が可能なロボット農機の性能を発揮できる農地の整備など、これらの取組みを推進・発展させていくために、農業生産基盤の新たなあり方を議論することは重要と考えます。

本小特集では、食料供給の安定化や環境保全を両立させる持続可能な新たな農業生産基盤の構築に向けた報文を募集します。具体的には、水田の畑地化、農業生産の維持向上との両立を目指す気候変動への適応策や緩和策、先端的な技術を活用した生産方式やスマート農業の推進を視野に入れた農業農村整備に関する取組みや事例のほか、基盤整備の将来的な展望、地域ごとの課題や可能性、新たな時代に即した基盤整備の役割や取組みについての提案や構想を幅広く募集します。

## 学会誌第93巻第6号テーマ「これからのストックマネジメントのあり方」(仮)

農業水利施設は戦後から高度経済成長期にかけて集中的に整備されてきたことから、老朽化が進行しており、中長期的な視点で機能保全を図っていくことが求められています。このような背景の中、2023年に改訂された「農業水利施設の機能保全の手引き」では、構造機能を主体とした機能保全の考え方に、水利利用機能を含む“農業水利システム”の観点を加えるなどの見直しが行われています。また、当学会は(公社)土木学会と連携して「インフラ健康診断書2024」を作成するなど、わが国の経済・社会活動を支えるインフラを健康な状態に保つための提言にも力をいれています。以上から、農業水利施設の適切な維持管理において、ストックマネジメントの課題を改めて共有することは重要です。

## 2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/journal/>)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

他方で、食料・農業・農村基本法が改正され、食料供給能力の維持を目的とした海外輸出の振興が明確に位置づけられました。関連して、生産基盤を維持するための人口減少下での農業インフラの保全管理に向けた法整備が検討されています。この保全管理においては、基幹施設の集約・再編、ライフサイクルコストの縮減、ICT等の新技術の活用が推進されています。

本小特集では、現況のストックマネジメントの課題や新たな視点、補修・補強技術の実装と課題、地域資源や農村地域の特性を活かした保全管理の取組み、農業水利システムの構築における視点など、ハード・ソフト両面から施設管理の高度化や農業水利施設の機能保全に関する課題を整理し、今後の展開を見通せる報文を幅広く募集します。

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

## 改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

## 改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会Web上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web上閲覧希望」とメール件名に明記の上、

氏名、会員番号および購入年月を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記E-mail宛にお申し込みください。

[suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称: PAWE)を発行しています。なお、Paddy and Water Environment誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関

わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2023年のインパクトファクター(IF)は1.9であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)

- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑輪換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界 12 カ国から Editor（22 名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review、Article、Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

2024 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

#### 編集体制

##### ・ Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

##### ・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon KIM

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

National Taiwan University, Taiwan

##### ・ Editors 12 カ国から 22 名

##### ・ Editorial Advisors 27 名

##### ・ Chief Managing Editor

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

##### ・ Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Naoko OKA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Sciences(JIRCAS), Japan

#### 編集事務局（2026 年 6 月まで日本担当）

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

TEL : +81-42-367-5757

E-mail : taskkato@go.tuat.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回（オンラインジャーナル）

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円（税込）

学生会員（院生含む）4,950 円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

## 第 75 回関東支部大会講演会・地方講習会・情報交換会の開催（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム認定申請中



### 1. 主 催 （公社）農業農村工学会関東支部

後 援 農林水産省関東農政局、長野県

### 2. 支部大会（講演会・地方講習会等）

#### (1) 日 時

令和 6 年 12 月 13 日（金）10 : 30 ~ 17 : 00

さいたま新都心合同庁舎 2 号館 5 階 共用大会議室

〒 330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心 2-1

TEL : 048-740-0489（関東農政局設計課）

#### ・入館受付 2 階受付

※さいたま新都心合同庁舎 2 号館の入館についての詳細は、第 3 報に掲載します。

#### (2) プログラム（予定）

9 : 30 ~ 受付（5 階共用中会議室 503）

10 : 30 ~ 11 : 00 開会式（5 階共用大会議室 501）

11 : 00 ~ 11 : 30 支部賞授賞式（5 階共用大会議室 501）

11 : 30 ~ 12 : 30 講習会（5 階共用大会議室 501）

「(仮題) 調整中」 講師: 調整中

13:30~17:00 講演会

第1会場 (5階共用中会議室503)

第2会場 (5階大研修室5A)

第3会場 (5階中研修室5B)

第4会場 (5階小研修室5E)

・会場への案内

JR 京浜東北線・高崎線・宇都宮線

さいたま新都心駅から、徒歩約5分

JR 埼京線 北与野駅から、徒歩約7分

### 3. 情報交換会

(1) 日 時 令和6年12月13日(金) 18:00~20:00

(2) 会 場

MERCADO DEL PUERTO (メルカド デル プエルト)

(予定)

埼玉県さいたま市中央区新都心11-1

JR さいたま新都心ビル3階

### 4. 参加申込方法

(1) 申込方法

長野県農政部農地整備課ホームページに掲載いたします。

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nochi/nnkantotaikai.html>)

#### 【注意】

参加申込みに当たり、申込み者情報および参加者情報を登録いただく必要がありますので、あらかじめご了承ください。登録の際に提供いただく個人情報、厳重な管理のもと本支部大会のみに使用させていただきます。

また、登録による追加費用等は一切ございません。

(2) 申込期限 令和6年10月11日(金)

(3) 参加費

・講習会・講演会 2,500円(学生、講演者は無料)

・情報交換会 6,000円(予定)

(4) 昼 食

昼食は用意しませんので、各自でお願いします。

(5) 問合せ先

・大会全般・情報交換会(事務局)

長野県農政部農地整備課指導担当 武田、藤澤、齋藤

〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2

TEL: 026-235-7241 FAX: 026-233-4069

E-mail: [nochi-shido@pref.nagano.lg.jp](mailto:nochi-shido@pref.nagano.lg.jp)

・支部講演会・地方講習会・大会参加申込み・参加費納入  
長野県農政部農地整備課ホームページに掲載いたします。

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nochi/nnkantotaikai.html>)

### 5. 講演会発表者申込方法

(1) 申込方法

長野県農政部農地整備課ホームページに掲載いたします。

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nochi/nnkantotaikai.html>)

(2) 申込期限 令和6年10月11日(金)

(3) 原稿締切 令和6年11月8日(金)

(4) 原稿枚数 2枚または4枚

(5) 講演時間 質疑応答を含め15分程度

(6) その他

幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

講演概要(200字)は学会誌や学会ホームページなどで公表させていただきます。ご了承ください。参加費は無料です。

### 6. その他

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお願いします。

## 第45回農村計画研究部会現地研修集会の開催(第2報)

1. 主 催 農業農村工学会農村計画研究部会

協 賛 農村計画学会

2. 日 程 令和6年11月7日(木)~8日(金)

3. 場 所 山形県山形市・朝日町

4. テーマ ルーラルイノベーション

5. 趣 旨

ルーラルイノベーションの取組みは、都市部で先行しているイノベーションを農村部でも起こすことで農村地域の持続的発展を目指すもので、OECDでは2019年から加盟国の中で調査を開始しました。日本においては2023年1月に山形県内で現地調査が実施され、2024年1月の「山形県ルーラルイノベーションセミナー」においてその中間報告が行われました。

中間報告においては朝日町の榎平(くぬぎだいら)の棚田に

おける棚田保全活動や県産酒の地理的表示登録に繋がった山形県研醸会の取組みなどが高く評価され、住民が地域資源を活かして収益性を確保する活動や、それを自治体職員などが支える仕組みは人口減少の課題を抱える各国の参考になるとされました。

それらを踏まえ、現地研修では実際にOECDが調査に訪れた箇所や取組みに触れ、当事者から説明を受けることで農村におけるイノベーションについて考えていただきます。

### 6. 行 程(予定)

1日目 11月7日(木)

13:00 JR山形駅 集合

14:00~15:00 榎平の棚田(現地見学・棚田保全会の取組みの紹介)

15:30 Asahi自然観(施設見学、懇親会)

同所にて宿泊

2日目 11月8日(金)

8:30 Asahi 自然観 出発

9:30~11:00 遊学館(山形県研醸会による取組みの紹介)

11:30~12:30 昼食

12:30~13:30 山形五堰(七日町御殿堰周辺)の散策

13:30~15:30 遊学館(山形県のルーラルイノベーション推進に向けた取組みの紹介)

16:00頃 JR山形駅 解散

7. 募集人数 30名

8. 参加費・参加申込み

(1) 参加費 2,000円(一般), 無料(学生)

※山形までの交通費, 宿泊費, 懇親会費用, 昼食費は別途参加者の自己負担とする。

(2) 宿泊

宿泊先: Asahi 自然観

〒990-1574 山形県西村山郡朝日町白倉745-1

宿泊費: 13,300円(予定。1泊2食。懇親会は夕食と合わせて開催)

※シングル利用の場合は+1,500円となります。

※部屋数に限りがあるためすべてのご要望にお応えできない場合がありますので, ご容赦ください。

(3) 昼食 1,000円程度(予定)

※そばアレルギーの方はご相談ください。

(4) 参加申込み

申込期限 令和6年10月25日(金)

申込方法

下記URLもしくは二次元コードにて必要事項を入力してください。

申込みフォーム

<https://forms.gle/HFcHHqhwXgTEG7iD7>

(5) 問合せ先

農村計画研究部会 現地研修集会担当

山形大学農学部 栗原良樹

E-mail: kuwayoshi@tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp



## 第34回農村道路研究部会研究集会の開催(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 農業農村工学会 農村道路研究部会

2. 特定課題

地震の教訓(避難路, 迂回路等としての活用事例等, 災害に強い農村道路への取組み)と農道を巡る情勢(基準改定)

(1) 招待論文: 特定課題

(2) 研究論文: 特定課題および農村道路に関わる研究課題

(3) 技術論文: 農村道路に関わる調査・計画・施工の自由課題

3. 現地研修 農道事業地区の紹介

4. 開催日 令和6年11月18日(月): 研究集会

令和6年11月19日(火): 現地研修会

5. 発表申込み

(1) 発表申込期限 令和6年10月29日(火)

(2) 原稿提出期限 令和6年11月5日(火)

(3) 申込方法などの詳細

農業農村工学会ホームページ([https://www.jsidre.or.jp/r6\\_nosondoro-kenkyubukai/](https://www.jsidre.or.jp/r6_nosondoro-kenkyubukai/))にてご確認ください

さい。

6. 会場

現地開催

ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

(11階 ギャラクシー)

〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通2-27

7. 参加費

研究集会: 2,000円, 情報交流会: 7,000円, 現地研修会: 2,000円

8. 参加申込締切

令和6年11月5日(火)

申込方法などの詳細は農業農村工学会ホームページ([https://www.jsidre.or.jp/r6\\_nosondoro-kenkyubukai/](https://www.jsidre.or.jp/r6_nosondoro-kenkyubukai/))にてご確認ください。

9. 問合せ先 鳥取大学農学部 兵頭正浩

E-mail: hyodo@tottori-u.ac.jp

## 令和6年度ADCAセミナー「国際協力という選択」の開催

1. 主催 (一社)海外農業開発コンサルタント協会

後援 農業農村工学会ほか

2. 日時 2024年10月19日(土) 13:30~17:00

3. 場所 JICA 地球ひろば6階「セミナールーム600」

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

4. 参加対象 農業開発, または国際協力に関心のある学生

5. その他

詳しくは, 令和6年度ADCAセミナーのホームページ(<https://www.adca.or.jp/seminar/>)をご覧ください。

## 第33回微粒化シンポジウムの開催

1. 主催 日本液体微粒化学会 (ILASS-Japan)  
日本エネルギー学会

協賛 農業農村工学会ほか

2. 日程 2024年12月17日(火), 18日(水)

3. 会場

広島国際会議場

〒730-0811 広島県広島市中区中島町1-5(平和記念公園内)

(アクセス詳細は <https://www.pcf.city.hiroshima.jp/icch/access.html> をご覧ください)

4. 問合せ先

〒739-8511 広島県東広島市鏡山1-3-2

広島大学大学院先進理工系科学研究科 機械工学プログラム

「第33回微粒化シンポジウム」参加担当幹事 尾形陽一

E-mail: [yogata@hiroshima-u.ac.jp](mailto:yogata@hiroshima-u.ac.jp)

5. その他

詳しくは、微粒化シンポジウムのホームページ ([https://www.ilass-japan.gr.jp/activity/sympo\\_index/](https://www.ilass-japan.gr.jp/activity/sympo_index/)) をご覧ください。

## 資格試験のための 農業農村工学必携 第二版

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書の初版は「改訂七版 農業農村工学ハンドブック(平成22年発行)」をコンパクトに再編集し、平成24年6月に発行いたしました。

資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものです。

第二版は、初版で要所に挿入されていた「確認テスト」を最近の資格試験問題の動向に合わせて増補更新し、「テキスト」と「問題集」の分冊形式としています。

是非ともご購入の上、お役立てください。

## 主要目次

## [テキスト]

本編

- 第1部 農業農村工学概説
- 第2部 農業農村の整備計画
- 第3部 設計・施工
- 第4部 管理

第5部 事業の施行

基礎編

- 第1部 数学・情報
- 第2部 土
- 第3部 水
- 第4部 基盤

第5部 農業・環境

第6部 社会

索引

## [問題集]

体裁: B5判 約520ページ  
定価: 本体2,827円(税込)  
送料: 1セットにつき200円

発行: 公益社団法人 農業農村工学会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494 E-mail: [suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

学会ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp/>

